

「コロナ・ハラスメント」ガイドラインにおける詳細について

新型コロナウイルスの流行で生活様式やコミュニケーションの方法が大きな変動を見せる今、職場でも新しい問題が起こりつつあります。その中でもトラブルとして挙がるのが、“コロナウイルス”感染を理由としたハラスメント。いわゆる【コロハラ】です。

新型コロナは人類未知のウイルスであり、誰しも怖いものです。この病気に対する恐怖心、誤解や偏見により、知らず知らず誰かを排除したり、差別をしていませんか？ 感染者や接触者、医療従事者や他地域からの来訪者などに対する差別は許されるものではありません。公的機関が発信する正しい情報と知識をもとに、差別やハラスメントを防ぎ、人権に配慮した冷静な行動・対応をお願いします。

講じる具体的な事例

1) 精神的な攻撃

- ☐ 就業時に暴言や陰口、本人に無断で席を替えるなどを行う
- ☐ ちょっとした咳や行動に対して、謝罪や過剰な対応を要求する

2) 人間関係からの切り離し

- ☐ 感染者の多い地域から通勤していると、「感染しているのに出社している」「怖いから」
「近寄らないでほしい」などという

3) プライベートの侵害

- ☐ 家族に医療従事者や感染者がいる従業員へ、欠勤を強要する・仲間外れにする
- ☐ コミュニケーションを極端に嫌がる

4) 感染予防対策をしない

- ☐ 自分がかからないとマスクをしない
- ☐ わざと感染症対策をしない

コロハラは、ハラスメントとして労働環境を悪化させるだけでなく『新型コロナ流行を長引かせる・感染拡大を助長する』ものだとし自覚することがコロハラを防ぐ第一歩です。

新型コロナを理由として行われる「コロナハラスメント」ですが、その本質は「モラハラ」「パワハラ」「セクハラ」と同様の「ハラスメント」です。

■モラルハラスメント加害者の特徴（一例）

- ・どんな理由を持ち出してでも、自分の考え・意見を正当化する
- ・怒って感情的に責めれば、自分の思い通りになる
- ・最初の頃は優しいが、心を許した後、言動が豹変
- ・第三者の前では、「とても良い人」として振る舞える二面性を持つ
- ・自分の思い通りにならないとキレて逆上する
- ・常に自分の考えを正当化しようと、その場限りの意見を言うため、言動に矛盾がある
- ・自分の非がある時でも、何とか相手の非を見つけて責め立てる

※日本では新型コロナの死者より自殺者が圧倒的に多い現状があります。

株式会社鹿沼梱包運輸 KPTグループは、ハラスメント行為は断じて許さず、すべての従業員が互いに尊重し合える、安全で快適な職場環境づくりに取り組んでいきます。